

城南総合研究所 調査報告書No.28

小泉純一郎元首相、民進党蓮舫代表が、 日本の農業とエネルギー問題を解決する 「ソーラーシェアリング」を視察！

平成28年11月9日（水）、城南総合研究所の名誉所長である小泉純一郎元首相が、神奈川県小田原市内で行われた「ソーラーシェアリング」の完成披露会に参加しました。

また、平成28年12月27日（火）、民進党代表の蓮舫参議院議員が千葉県匝瑳市内飯塚地区で取組まれている「ソーラーシェアリング」を視察しました。

営農しながら太陽光発電を行う「ソーラーシェアリング」は、日本のエネルギーのあり方を抜本的に変える可能性を秘めており、また、耕作放棄地の拡大や農家の高齢化等の問題を根本から解決できるとあって、多くの人から期待と関心が寄せられています。

<小泉純一郎名誉所長が神奈川県小田原市内の「ソーラーシェアリング」を視察>

神奈川県小田原市内を本拠にしている合同会社小田原かなごてファームが運営する「ソーラーシェアリング」の完成披露会に小泉純一郎名誉所長が参加しました。今回視察したソーラーシェアリング施設は、327平方メートルのサツマイモ農地に太陽光発電パネル56枚を設置、15.12キロワットの発電容量をもっており、農業をしながら太陽光発電を行うことができるため、農業の付加価値向上や耕作放棄地の再生等の観点から全国的に注目を集めております。同施設を視察した小泉名誉所長は、「電気を作りつつ農地を犠牲にしない。日本人の知恵と技術力の賜物だ」とソーラーシェアリングを評価した上で、「10年後を見据えれば、日本の全電源の約30%は自然エネルギーで賄うことが可能である」とエネルギー政策転換の重要性を強調しました。



<民進党代表の蓮舫参議院議員が千葉県匝瑳市の「ソーラーシェアリング」を視察>

平成28年12月27日(火)、当金庫がプロジェクトや資金面を含め全面的に支援協力をしている千葉県匝瑳市飯塚地区の「ソーラーシェアリング」を、民進党代表の蓮舫参議院議員が、福山哲郎参議院議員や千葉県の地元議員等と一緒に訪れ、稼働中の「ソーラーシェアリング」の下で、地元農家の皆さんや関係者から説明を聞き、「ソーラーシェアリング」への理解を深められました。



同施設を視察した蓮舫代表は、「これから作成するマニフェストの中でも、エネルギー政策はとても重要な柱となる。自然エネルギーについては、あらゆる選択肢が考えられるが、日本の農業には持続可能性があり、発展性がある。ソーラーシェアリングに取り組むことで、電気も農作物も地産地消が可能となり、原発の再稼働に頼らなくてすむことを教えていただいた」とコメントされました。



また、視察後に行われた意見交換会では、吉原毅城南総合研究所長が農地の一時転用許可について「3年ごとの届出制にするといった規制緩和の必要性」の提言や、地域金融機関の立場に立って「地域の活性化には地域金融機関の役割が重要である」と述べました。

<「ソーラーシェアリング」について>

農地に支柱を立てて上部空間に太陽光パネルを設置し、農業と発電事業を同時に行うという画期的な取り組みです。平成25年4月1日に、農林水産省が「支柱を立てて営農を継続する太陽光発電設備等についての農地転用許可制度上の取扱いについて」のガイドラインを公表したことにより、事業化が認められるようになりました。

(詳細については、『城南総合研究所調査報告書 No.23』をご覧ください。)